

第 2 回長野広域連合ごみ処理施設整備計画専門委員会議事概要

平成 22 年 3 月 2 日開催

会場 長野市役所

前日に開催した第 1 回専門委員会では、ごみ処理施設建設候補地の視察をした。また、委員長に横田 勇委員（静岡県立大学名誉教授）、副委員長に藤吉秀昭委員（日本環境衛生センター常務理事）を委員の互選により選出した。

第 2 回専門委員会の開催に先立ち、連合長から委嘱書を交付した。

専門委員会協議概要

(1) 委員会の進め方について

機種を選定等メーカーの利害関係に絡むような要素が含まれてくることがあるので会議は非公開とすることとした。議事録については、差し支えない範囲で公開することとした。

(2) ごみ処理広域化基本計画について

ごみ処理広域化基本計画の概要を説明し、質問・意見を伺った。

委員：ごみ量の予測とか人口予測というのは各市町村の計画と整合性がとれているか。

事務局：小さい町村は、ごみ量予測、人口予測がないため独自に計算した部分もある。

大きいところは独自に予測を立てているので、その数字を使っている。

委員：スケジュールでは A 焼却施設、B 焼却施設ともに 23 年の 9 月に着工となっている。住民同意がとれれば、事業者選定まで含めてこの期間にやってしまうという考えか。

事務局：そういう想定で進めている。

委員：資源物の処理実績を見ると、残渣量がかなり多いという印象がある。

委員：収集原単位がひとり一日あたり 600g から 650g くらいで、限界に近い。分別を増やしてもそんなに大きな期待はできない。集団回収か、事業系の方が減らしやすいので、その割合を増やしたほうが全体的に減るという気がする。

委員：広域化計画を見直すということだが、従来のダイオキシンの出ない社会や循環型社会に加え低炭素社会を作るとというのが大きな課題となっている。エネルギー消費が非常に高いような資源化のあり方が見直される動向にある。ごみ発電を高効率化しようというのも大きな政策となっている。

事務局：人口減少ということからすれば当然ごみの量が減ってくる中で、最終的には検討委員会で、専門委員の皆さんのご意見をいただいた中で議論していただく必要があると思っている。

委員：ひとつに集中化、集約化するという考え方もあるかと思うが、運営の安定性、安全性を考えた場合、複数施設を持っていたほうが有利だという考え方もある。

委員：発電効率も、ごみ質データを基本にするので、ごみ質をきちんと分析するというのが、今後必要になる。ごみ質が近年変わってきている。

委員：低炭素社会を作るという視点から、計画を見直すというのはあると思う。専門委員会でも議論する場があるという理解でよいのか。

事務局：そのようにお願いできればと思う。

委員：22 年を境にごみ量の予測が上向きになっているが、これはなんら策を施さないとこんな形で増えていくだろうという素直な予測の結果こうなったのか。

事務局：20 年度に少し修正を加えた。市町村ごとに原単位で予測を立てている。過去 5 年間を使って予測しているが、純粋に数学的に予測をした結果である。

委員：高齢化で世帯内の人数が減ってくるとごみは増える。

委員：分別区分が構成市町村によってだいぶ違うが、将来的には統一するという考え方が。

事務局：長野広域が行うのは、可燃ごみの焼却とその施設から出てくる灰の処分に限定されている。従って、不燃ごみ処理とか資源物あるいは分別収集計画については個々の市町村に残る。広域連合は処理施設を造って、そこへ持ってくるものについて処理をするということになるので、施設に入るものについては、一定の基準を示していかなければいけないと思っている。

委員：一番問題になるかもしれないのは、生ごみをどういうふう to 今後やっていくかで変わってくる。

事務局：生ごみ等の処理施設を独自に造っていきたいというような計画を持っている市もあるようだ。広域連合でやっていこうという構成市町村の合意があれば可能かと思うが、現時点ではないと思っている。

(3) 建設候補地について

建設候補地を視察しての感想を述べていただいた

①A焼却施設

委員：階段状の土地の形なので、うまくやらないとグリーンベルトが途絶えてしまう。

事務局：既存の焼却施設を解体して、1.3ha くらいの公園を造る計画である。北側に民家が多いので、緩衝緑地として、公園と連携を持たせたいと考えている。

②B焼却施設

委員：搬入路が狭い。地元還元を考えて、道路整備をされたらいいのかなという気がする。

委員：排熱の需要を考えて、無理に発電をするということではなくて、もっと広く検討できればと思う。

委員：畑になっているところは透水性が良すぎる。地下水位がかなり浅い可能性がある。

事務局：測量や地質調査をさせていただきデータを取りたい。

委員：ごみの発生重心には近いと考えてよいか。

事務局：一部長野市からのごみも来るので、発生重心にも近いし、人口重心にも近い
かと思う。

委員：収集車の走行距離を必要最小限にとどめるというのも重要だと思う。

委員：中継基地をどこかに作るとかという話はまったく今までなかったのか。

事務局：今までの議論の中では出ていない。既存の施設を中継施設として使うという
ような方法は当然あると思う。

③最終処分場

委員：処分場の用地としては十分な容量がとれていると思うが、かなり流域が広いの
と、水の量が多い。地質地下水調査をかなり慎重にやる必要がある。

委員：処理水を下水に放流することは良いが、水質が安定した後も河川放流には多分
変更できない。下水道終末処理場と事前に協議をしておかないと、維持管理費が
半永久的にかかることになる。

委員：現状の水質は調べているか。

事務局：まだ調査させていただけるような状況にない。

委員：処分場の形態は想定されているものはあるのか。被覆形にするとか、オープン
形にするとか、それもこれから決めるということか。

事務局：費用の概算を出す中ではオープン型で想定をして、溶融飛灰処理物と溶融廃
棄物、溶融スラグの3種類を入れる。

委員：いずれにしても基礎調査に着手していただきたい。

(4) 今後のスケジュールについて

次回の会議については5月18日午前10時30分から東京都内で開催する予定とした。